

大学の世界展開力強化事業
令和元（2019）年度採択
令和5(2023)年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
令和6(2024)年3月8日
独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2019年度に採択された3件のプログラムについて

- ① 取組の進捗状況
- ② 特記すべき成果
- ③ オンラインを活用した工夫・改善点
- ④ 交流学生数の実績等
- ⑤ 日-EU共同学位プログラムの構築数
- ⑥ 任意指数(設定した事業のみ)

上記の6観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績(派遣・受入学生数)等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。前年度(2021年度)は各プログラムで目標に到達できなかった内容も一部あったが、各大学の目標達成に向けての努力がなされており、事業最終年度に向けて取組内容を発展させる活動が見受けられる。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

東京外国語大学

2022年7月に、コンソーシアム各校より7名の教員を招聘し、ハイブリッド形式により修士論文合同審査を行うとともに、本学教員と招聘教員が合同してプログラム学生の研修旅行を引率するなど、日欧の教員による実地での共同指導を行った。また、対面によるコンソーシアム会議を実施するなど、オンライン・対面を効果的に活用して、連携・指導体制の強化を図った。

○豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

2019年度に設置した欧州側3大学とのコンソーシアム運営組織において、コンソーシアム形態での大学間協力を推進しており、コロナ禍においても、オンラインを活用しながら、定期的にAcademic Management Board(AMB)及びQuality Assurance Board(QAB)を開催して、プログラムの運営を行っている。

慶應義塾大学 〈交流推進部分〉

CNRS-AIST Joint Robotics Laboratory副所長を講師に迎えた2週間の集中講義ならびに産業技術総合研究所(AIST)つくばセンター見学の実施(2022年6月)、ロボティクス関連の国際学会IROS 2022へ学生派遣(10月)、ロボット関連企業訪問(2社)と、学外への展開も積極的に実施。学生に先端研究に接し、人的ネットワークを広げる機会を提供した。

①取組の進捗状況

慶應義塾大学〈プラットフォーム構築部分〉

「日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践」をテーマにシンポジウムを開催した。欧州における国際共同学位の発展経緯と現状、質認証・質保証についてJDの実例紹介を交え、広く国内外へ情報提供を行った。並行して、採択校3校ならびに全国大学JDP協議会との連携を図りつつ、欧州各大学との意見交換の機会を多数設け、国際共同学位に関する動向把握に努めた。

② 特記すべき成果

東京外国語大学

コロナ禍により来日が延期されていた受入学生(1期生および2期生)の渡日に向け、個別に柔軟かつ緊密な情報共有と指導を行うことで、6月までに全員の来日受入を実現した。

派遣においては、中央ヨーロッパ大学(CEU)のキャンパス移転とインターンシップ日程等プログラムの変更に伴って滞在許可取得などに混乱が生じたため、3期生の査証取得・変更等の手続きのサポートを行なった。この結果、全員が期日内に渡航し、新学期からの活動に参加することができた。

2022年7月、CEUから3名、新リスボン大学(NOVA)から2名、フィレンツェ大学(UniFI)から1名の教員を招聘することで、学生会議(1期生修士論文／研究合同審査および2期生同中間報告会)に、各大学から1名以上の代表教員が対面で参加することを可能にした。

また、同会議をハイブリッド形式で実施することで、オンライン参加者も含め、プログラム学生の指導に当たった日欧の教員延べ43名の参加を得た。

○豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

欧州側の複数大学との連携を通じ、欧州エラスムスプログラムに準拠した共同募集/共同選考、教育カリキュラム共同実施、共同指導、教員相互派遣、質保証等を通じ、大学院教育における国際通用性の促進、教育のグローバル化が図られている。

また、本プログラムは、日本側と欧州の大学3大学が授与する複数学位(マルチプルディグリー)の取得が可能となるプログラムで、各大学が強みを持つ教育を受けることができる。

なお、多様な出身国の学生が参加するプログラムとなっている。

② 特記すべき成果

慶應義塾大学 〈交流推進部分〉

エコール・サントラル・ナント(ECN)、ジェノヴァ大学、ワルシャワ工科大学にそれぞれ教員が1～2名出向き、複数の現地教員とディスカッションを行ったことで、現地教員との共同指導体制の強化ができた。現地大学在籍の修士課程の学生へのセミナーも開催する等、各大学間の連携も推進できた。

1期生日本人学生は、コロナ禍で実渡航が叶わなかったため、EU3大学に働きかけ、特別に2022年9月の修了前にEU3校全てを訪問し、現地で研究成果発表や討議の機会を設け、オンラインでの留学経験で欠けた対面での交流、その土地の文化・歴史に触れる機会を提供した。

慶應義塾大学 〈プラットフォーム構築部分〉

2022年10月に「日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践」をテーマに、『世界展開力強化事業～日-EU戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム』を開催した。本シンポジウムには日本各地、欧州各国からの参加者が100名を超え、事後アンケートでは参加者の97%が非常に良い・良い内容であったと回答し、「日欧両方の具体的な課題等とてもよく理解することができた」、「質保証について考慮すべきであることを理解でき、有意義だった」等のコメントが寄せられた。このことから、国際共同学位プログラムについての適切な情報提供ができたと考える。なお、すべての内容をオンデマンドの形で、随時聴講できるようウェブサイトにて公開している。

③ オンラインを活用した工夫・改善点

東京外国語大学

2022年7月、東京で修士論文の審査をハイブリッド方式で行った。学生による修士論文／研究のプレゼンテーションは本学の会議室にて公開で行われ、会場にはEU側から招聘した教員6名と、日本側から学生指導に関わった教員、傍聴者が臨席した。オンラインでは、ヨーロッパから指導に携わった教員をはじめ、コンソーシアム大学の関係教員、報告学生の関係者らが参加した。報告後、審査・評価を話し合うため、東京から参加した教員は別室に移動し、オンラインでヨーロッパの指導教員たちと協議した。審査後にはプログラム修了式もハイブリッドで実施し、COVID-19の影響により最終審査に対面で参加することが叶わなかった学生に対しても、本学学長からプログラム修了証の授与を行った。

○豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が継続する中、2022年度も2021年度に引き続き、オンラインも活用してプログラムを実施した。必要に応じて、ガイダンスや講義等をオンラインで提供するとともに、バーチャルリアリティ、拡張現実、複合現実などの技術を用いた遠隔地での実験等のハイブリッド授業を行っている。その一例として、東フィンランド大学では、「Smart Lab (Sm4rtlab)」と呼ばれる遠隔操作によるラボ実験が行われている。また、コンソーシアムにおけるAMB及びQAB等の会議・打合せについても、対面での開催に合わせて、オンライン会議も活用し、実施した。

③ オンラインを活用した工夫・改善点

慶應義塾大学〈交流推進部分〉

来日が可能になった4月以降も、個人の事情により来日できなかったボスニア・ヘルツェゴビナ出身の留学生がいた。この学生に対しては、オンラインでの研究指導を継続し、当該学生は十分に修了要件を満たす成果を出すことができた。

また、日本人学生への広報強化の一環で、欧州留学中の3期生ともオンラインでつないでJEMARO 説明会・現地留学報告会を対面で実施し、30名近い参加者のもと、留学を検討する学生との質疑応答を行った。結果、大幅な国内出願者増につなげることができた。

慶應義塾大学〈プラットフォーム構築部分〉

国際共同学位についてのシンポジウム・勉強会をオンラインの活用により実施、日欧の幅広い大学からの参加を得、意見交換を実現している。2022年10月の公開シンポジウムには、欧州や豪州からの参加のみならず、国内からは39大学の参加を得た。2022年7月のセミクローズドのEU-日本国際共同学位情報交換会には、欧州と日本において国際共同学位を実施する欧州6大学、日本3大学の関係者が参加し、フランスの質保証機関(HCERES)による欧州における質保証の動向、既設のジョイント・ディグリープログラムの実例を紹介し、新たなジョイント・ディグリー設置に向けた議論を行い、相互理解を促進させることができた。

④ 交流学生数の実績等

(4-1) 交流プログラムで留学した日本人学生（派遣学生）の進捗状況 東京外国語大学

学年を超えた交流を作り出すため、4月に複数回にわたってプログラム参加学生と参加を検討している学生の交流会を開催した。延べ人数で学部生が8名、大学院生が1名、HIPS参加学生が4名参加し、プログラムに関する活発な質疑応答を行なった。

○豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

豊橋技術科学大学におけるコロナ禍での活動基準により、海外研修・留学は、原則、外務省感染症危険情報が「レベル1」又は同情報が発出されていない国への渡航であることが条件とされていたが、2021年4月に基準を見直し、外務省感染症危険情報レベルが2又は3であっても、学位プログラムに係る留学を目的とした渡航等、修学上やむを得ない事情がある際は、渡航前の確認・準備等を行うことを前提に、渡航を可とすることができるようにした。このため、2021年度以降の派遣については、予定通り実施することができる。

④ 交流学生数の実績等

(4-1) 交流プログラムで留学した日本人学生（派遣学生）の進捗状況 慶應義塾大学

日本人応募者を多く得るためにJEMAROに関する情報発信を積極的に行っている。様々な留学プログラムを紹介するパンフレットにおいて、当プログラムの紹介を行い、一年を通じて相談受付を行っている。2022年12月には4期生の公募説明会を大学院ダブルディグリー説明会と合同で実施した。プログラム担当教職員が紹介するのみならず、欧州に留学中の3期生とオンラインでつないで対話をする形の説明会とし、またダブルディグリー説明会と合同で行うことで、より多くの学生に海外における学位取得の選択肢として検討する機会を提供することができた。

④ 交流学生数の実績等

(4-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生（受入学生）の進捗状況 東京外国語大学

2021年度中の来日を予定していた1期生4名および2期生10名について、ハイブリッド形式で授業を行うとともに、渡航日程の調整、COVID-19の影響を考慮した空港からの送迎、一部学生の自主隔離対応等を個別に行うことで、2022年6月までに、全員を実際に受け入れることができた。7月には、修士論文／研究合同審査のため、1期生3名が短期間来日した。3期生は、2022年10月以降、査証手配や寮の入居準備、私費学生に対する各種保険の案内等を行い、2月に休学中の1名を除く15名が来日した。

○豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

2021年度の学生募集(第3期生)において、欧州側は224名の応募者があり、AMBIにて、欧州側は39名(うち30名は補欠合格者)が履修予定学生として採択され、最終的に目標を上回る13名がプログラム履修をすることとなった。

上記学生は、2022年9月より、東フィンランド大学でのプログラムを開始し、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の状況下ではあったが、全員が欧州入国をし、現地でのプログラム履修した。その後は2023年10月より、日本でのプログラム履修を予定している。

④ 交流学生数の実績等

(4-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生（受入学生）の進捗状況

慶應義塾大学

EU側の応募が3期生873名、4期生852名であった。これは、各方面における広報の成果が得られたものと考えている。人数のみならず、該当分野は国内では女性比率は低い傾向にあるが、JEMAROでは3期生145名、4期生144名と女性応募者比率が17%と高い。近年、パキスタン、バングラディシュといったアジア圏からの応募者の増加がめざましく、世界的に広く認知された公募プログラムとして定着しつつある。

④ 交流学生数の実績等

(4-3) プログラムごとの派遣学生数および受入学生数(2019年度採択) 〈全体の状況〉

2021年度の受入学生数は各プログラムともに達成目標に対する実績の割合が50%を下回る厳しい状況であったが、2022年度は上昇傾向にある。一方で、受入学生数はコロナ禍という状況下であっても、達成目標を超える実績を重ねており、更なる期待が持てる。

大学名	事業(プログラム)名	取組年度	派遣学生数		達成目標に対する実績の割合(%)	受入学生数		達成目標に対する実績の割合(%)
			目標(計)	実績(計)		目標(計)	実績(計)	
東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	2019	0	0	-	0	0	-
		2020	8	1	12.5	8	10	125.0
		2021	8	3	37.5	8	10	125.0
		2022	8	5	62.5	8	16	200.0
		計	24	9	37.5	24	36	150.0
○豊橋技術科学大学 宇都宮大学 千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	2019	0	0	-	0	0	-
		2020	8	8	100.0	8	9	112.5
		2021	8	2	25.0	8	17	212.5
		2022	8	8	100.0	8	13	162.5
		計	24	18	75.0	24	39	162.5
慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)	2019	0	0	-	0	0	-
		2020	2	3	150.0	0	0	-
		2021	4	2	50.0	14	9	64.3
		2022	4	3	75.0	12	16	133.3
		計	10	8	80.0	26	25	96.2
合計			58	35	60.3	74	100	135.1

⑤ 日-EU共同学位プログラムの構築数

(5-1) 日-EU共同学位プログラムの構築の進捗状況

東京外国語大学

共同学位プログラムの今後の展開については、プラットフォーム事業の主催による共同学位国際シンポジウムでの報告や全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会へのオブザーバー参加を通じた検討を行っている。学内においては、ジョイント・ディグリーへの移行を含め検討する勉強会を立ち上げたほか、学長室を中心に全学的に検討を進めている。また、コンソーシアム会議でも、今後ジョイント・ディグリープログラムへの移行に向け調整を行っていくことが合意された。

○豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

日欧6大学及び連携企業でのコンソーシアム体制を構築し、日欧大学の代表者から構成するコンソーシアム内の2つの組織(AMB・QAB)を設置し、プログラムの質保証の仕組みを取り入れた共同事業運営を行っている。

慶應義塾大学

「EU-日本国際共同学位情報交換会」をオンラインで開催し、フランス、イタリア、ポーランド、ドイツ、ルーマニアの欧州6大学、日本3大学の関係者が議論を行った。国際共同学位の認証評価(Accreditation)への取り組みについて紹介し、ジョイント・ディグリー設置に向け効果的に相互理解を深めることができた。

⑤ 日-EU共同学位プログラムの構築数

(5-2) 日-EU共同学位プログラムの構築数(2019年度採択)

大学名	事業名	取組年度	構築数		達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	ジョイント・ディグリー		ダブル・ディグリー	
			目標	実績		目標	達成	目標	達成
			(計)	(計)					
東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	2019	0	0	-	0	0	0	0
		2020	4	4	100.0	0	0	4	4
		2021	0	0	-	0	0	0	0
		2022	0	0	-	0	0	0	0
		計	4	4	100.0	0	0	4	4
○豊橋技術科学大学 宇都宮大学 千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	2019	0	0	-	0	0	0	0
		2020	2	2	100.0	0	0	2	2
		2021	2	2	100.0	0	0	2	2
		2022	2	2	100.0	0	0	2	2
		計	6	6	100.0	0	0	6	6
慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)	2019	0	0	-	0	0	0	0
		2020	1	1	100.0	0	0	1	1
		2021	1	0	0.0	1	0	0	0
		2022	0	0	-	0	0	0	0
		計	2	1	50.0	1	0	1	1
合計			12	11	91.7	1	0	11	11

⑥ 任意指数(設定した事業のみ)

○豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

豊橋技術科学大学では、ドイツ(シュトゥットガルト大学)及びフィンランド(東フィンランド大学)とのダブル・ディグリープログラムを実施しており、継続して長期で学生をEU諸国へ派遣している。学部4年次の必須科目としている「実務訓練」においても、EU圏での大学での実習を希望する者が多く、2019年度は本学からの派遣学生数は指標とした人数を上回っている。なお、2020年度～2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、目標の達成はできていないが、2022年度は回復傾向となった。また、2022年度はベルギーにて、IMLEXプログラムに関する会議が行われ、職員1名を派遣した。

(単位：人)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
(指標1) EU留学生数	23	17	12	30
(指標2) EUへの派遣学生数	31	12	13	31
(指標3) EUからの教員受入数	5	2	0	0
(指標4) EUへの職員派遣数/ EUからの職員受入数	7/2	0/0	0/0	1/0
(指標5) 協力企業関係者数	8	8	8	8